

# 映像・音響業界の グローバル技術商社へ

映像・音響業界で長年システム開発や空間デザインを手掛けてきたTotsu（旧東通産業）は、グローバル市場への対応を強化する。3月21日の社名変更や、外国人スタッフの積極採用に加え、海外の先端事例や知見を顧客支援に生かす取り組みに着手している。「映像・音響業界のグローバル技術商社になりたい」と語る大賀昭雄社長に、狙いや戦略について聞いた。

## 「一気通貫で

## 顧客の空間をデザイン

当社は1958年の戸須昭策による創業以来、映像・音響技術を使い、顧客の様々な課題解決を支援してきた。機器の適切な配置や独自ソフトウェアでの運用により、顧客が望む空間をデザインできるのが強み。これまで学校の視聴覚室や企業のテレビ会議システム構築を請け負ってきた。機器のメンテナンスも引き受けている。相談受け付けから運用支援まで一気通貫で対応できる企業は少ない。

デジタルへの需要増加に伴い、映像・音響技術への引き合いは強まっている。一方、近年は海外メーカーとの協業が不可欠になりつつある。最新のシステム開発や効果的な音の伝え方に関する研究は、海外勢が先行しているからだ。

## 「第二の創業」推進し ネットワークを拡大

こうした変化に対応するため、新たなビジョン「テクノロジーの力で、新たな価値とグローバルな繋がりを創造する」と、ミッション「将来を見透すグローバル技術商社へ」を礎に、「第二の創業」を推進するための様々な施策を実行していく。

第一歩として、当社は3月21日に社名をこれまでの「東通産業」から「Totsu」に変更する。アルファベット表記にして、海外の顧客に認知してもらいやすくなる。

戦略面では映像・音響業界のグローバ

ル技術商社になるため、従来の空間デザインだけでなく、海外企業の成功例を顧客に紹介したり、顧客同士の連携を提案したりしてネットワークを広げる。特にIoT（あらゆるモノがネットにつながる）を活用した効率的な会議室の運用などは海外が先行しており、そうした取り組みを提案することで顧客のビジネス成果の向上にもつながられる。

これまで米国や中国などから多彩な人材を採用してきた。彼らを通じて海外とのネットワークが広がることを期待している。海外の企業と連携したり提携関係を結んだりすることも既に始めている。

## 大型LEDビジョン 関連需要に照準

今後取り込むべき需要は大きく3つある。まず当社の空間デザインの要である、大型LED（発光ダイオード）ビジョンなどだ。高精細な画質が特長の大型LEDビジョンは、今後のコミュニケーションの質を左右する。

次にセキュリティだ。オンラインのやり取りが増え、情報流出が懸念される。DX（デジタルトランスフォーメーション）に対応した教育システムやオフィスをつくる中で、優れたセキュリティシステムも併せて顧客に提案したい。

生成AI（人工知能）への対応も重要な。既にAIやIT（情報技術）に詳しい社外の人材を役員として起用しており、将来のサービス開発に向け様々な知見を提供してもらっている。

# totsu



<https://totsu.jp/>



Totsu 株式会社  
代表取締役社長

大賀 昭雄氏

広 告

企画・制作=日本経済新聞社  
Nブランドスタジオ